

# えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



「守大助さんの顔を見て」2019\_01\_21

何故か、大助さんに会う時はいつも雨でした。だから大助さんの精一杯の笑顔の奥にある涙が空から降ってくるんだろうと思っていました。今日の空は雲一つない晴天。そして夜は満月がきらきら輝いています。雨の時より大助さんの辛さを感じる面会になりました。私は八戸から面会に来た方に便乗することが出来て1年以上ぶりに大助さんの顔を見ました。どこもかしこもインフルエンザが流行っているから大助さんもマスク着用。ちょっとマスクを外してお喋りしようとする。と刑務官がチラッと大助さんを見る。ただでさえ面会室の亚克力板が直接の会話を妨げているのに、マスクをちょっと外すくらいいいんじゃないかな…と思う。体調の事、ご両親の話、私のやっているインターネットラジオで大助さんの話をしている事、とりとめのない話であつという間に時間が過ぎてしまいました。大助さんの今年初めての出来事もあったそうです。それはみんなからの年賀状が1000枚を超えたんだそうです。切手シートが20組くらい当たっていたようです。刑務所の中では変えられないのでご両親に託すそうです。年賀はがきの当選も郵便局に自分で行って変えられない、今日はいい天気だからちょっと散歩しようかと塀の外を当たり前のように散歩する事もできない…。何故、彼がこんな扱いを受けなくてはいけないのか、本当に腹立たしい思いがこみ上げてきます。大助さんの笑顔がキラキラしているから余計にそう思うんだと思います。自分に出来る小さなことでもひとつひとつ積み上げて応援したいという気持ちをあらたにしました。ぼかぼかの小春日和にレジャーシートを広げて「今年の桜」を大助さんと一緒に見たいです。

東京ひぐらしの会 松山千穂



北陵クリニック事件独自最高裁要請日  
3月25日（月）10時50分集合：最高裁西門

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2019年 126号

● 2月は上旬にメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

## えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行が2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

## 1月28日（月）ご両親

今年初めての面会、月末の月曜日なので混雑を覚悟していたが3名のみで1番で受付できました。

ブカブカの服で入ってきたので思わず苦笑、笑顔で元気でしたので安心。まずは新年の挨拶を交わしいつものように要件を伝えて差し入れを確認してから話題に。新年早々鑑定人にお会いするのに併せて阿部弁護士が面会してくれ、話題が進み一時間を超え有罪の根拠とされた土橋鑑定は科学的にも世界的にも否定され日本のみの司法はあり得ても科学に国境はないと二人で笑っていたそうです。

外交官の出身の林裁判長、国連経験の伊藤調査官の国際感覚に科学的国境はどう理解されるのかと期待しておりました。

年賀状は1020枚で昨年は864枚で、秋田、津軽、大宮の守る会が加わったこともあるのか大幅に増加。励ましの言葉が書かれたもの、絵だけのものそれぞれ皆さん再審開始の願いを込められたもので大変感謝しておりました。

午後からは東北が雪模様なので心配でしたが雪の前に無事帰宅できました。

### 12月25日(火)横須賀支部

早朝5時から、炊事場での重労働と聞いているので健康渋滞が心配だったが、大助さんはいつものこやか笑顔で迎えてくれた。普通8人ですが4人でやることもあるという。大きな釜でつくるので足腰が筋肉痛になってしまう。冬は暖かいが猛暑の夏は、火を使うので大変です。それでも時給50円。

他の犯罪で入った人たちと協調していけると言われるがいちいちやり返して、喧嘩しても始まらないので、我慢している。忍耐力と柔軟性に頭が下がる思いがした。大助さんは強い語調で言われた。「自白だけで罪にはいけない。警察が証拠隠しをしても裁判所がよく調べ見極めてほしい。」

また、「桜木町で署名活動をしたら、協力した人がいた話を聞き、心強かった」と大助さん。無罪を待ち望むご両親のもとに一日でも早く戻してあげられるよう頑張ろうと思った。 **伊藤幸枝さん**

### 12月25日(火)

戸口にスッと立たれ大助さんはマスクをされ頭髪も短くされていたせいか、風邪かしら?と心配しました。仕事を変わったことを伺いました。嫌な顔もせず淡々と応えてくださいました。

おしゃべりが過ぎたかしらと反省も、支援者が毎月数人が連れだって励ましておりますが私たちが闘う姿勢を貫く、大助さんさんに励まされていると思っています。私たちが全国・地域の街の風、闘いを運ぶのが孤立した生活を余儀なくされている大助さんへのプレゼントの一つだとも感じています。

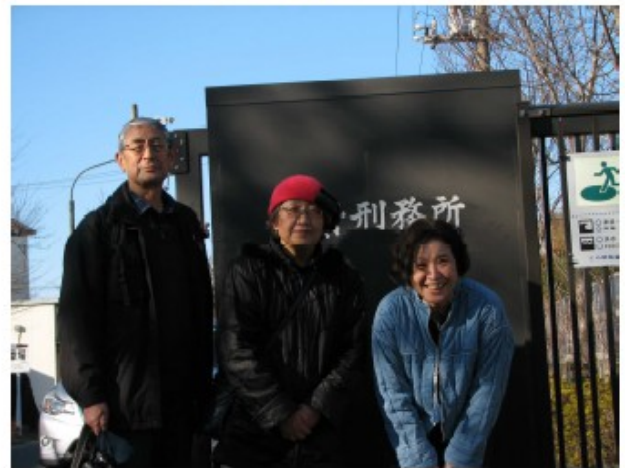
**吉田龍子さん**



神奈川からの添田、伊藤、吉田の皆さん

### 1月21日(月)八戸支部

大助さんに仙台拘置所での面会以来2度目の10年ぶりぐらいにかなと思います。千葉刑務所に来ました。仙台では眼鏡をかけていませんでしたが今日はかけていました。大助さんは今年元号が変わるが恩赦で冤罪者の5人が釈放されるといいですね。それに大助さんが悔しそうに話していたのは「僕はやった」と言ったばかりにいまだに拘留されているのですねと、また「公平、公正な裁判を一度でも受けていればきっと無実だと判ると思う。両親が元気なうちに釈放されて帰りたい。皆さん是非力を貸してください。」と終始にこやかに話されていました。30分の面会は終わりました。 **渡邊つたえさん**



阿部、渡邊、松山の各皆さん

### 1月16日(水)

佐々木直美さんが大助さんとの面会が終わった後に2~3年ぶりにお会して現在の心境を聞きました。直美さんは大助さんが勤めていた北陵クリニックに医療品の業者として勤めていてそれ以来の付き合いだそうです。そのような中であの事件が起きたときから大助さんが犯人ではないと思っていた、会うごとに冗談や激励を受し兄妹のような関係だそうです。いつも面会では、アクリル板がなければ喫茶店で他愛のない話で30分が過ぎてしまうの「これでいいのかな!?'と」思ってしまう。直美さんは一時は秋田に居ましたが千葉で仕事をしながら仕事の合間に面会に来ています。「疑わしきは大助さんの利益に、なら警察・検察もどこを見ているのか」と大きな怒りを言葉にしています。

20年来の交流の様子で大助さんの人柄を知り、一人で静かに支援をしている直美さんの心が良く解りました。

~戸賀記~